

26 セルフスタンドにおける火災危険性

全国のガソリンスタンドにおいて、セルフスタンドの火災危険性（※）はフルサービスの5.6倍です（平成16年～平成18年の平均）。

※ 火災危険性：10,000施設当たりの年間火災発生件数

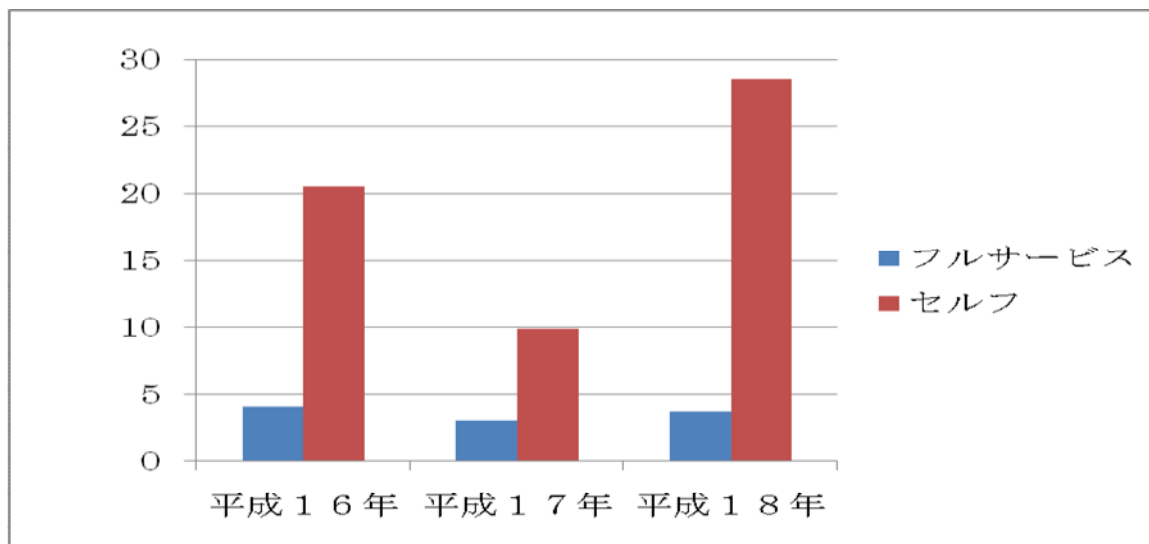


図 ガソリンスタンドにおける火災危険性

1 セルフスタンドにおける火災の典型例

- (1) 燃料タンクのキャップを外す際、タンク内のガソリン蒸気が噴出し、静電気で着火
- (2) 給油中の火気取扱いによる火災（例：くわえタバコ、ライター）
- (3) 携行缶注油時（法令で禁止されています）に静電気で着火
- (4) 二輪車に給油中吹きこぼれたガソリンが高温部に触れて着火

2 危険物取扱者の役割

セルフスタンドにおいては、危険物に関する知識が十分でない顧客が危険物を取り扱うこととなります。このため、店舗側の危険物取扱者の役割は非常に重要です。

- (1) 顧客の監視
顧客を監視し、安全上支障のないことを確認した上で給油させる。
- (2) 必要な指示
顧客に対して必要な指示を行わなければならない。
- (3) 顧客に対する啓発
(例) 火災危険性について注意喚起するポスター等を所内に掲示する。

参考：危険物施設における事故事例と安全対策について（危険物保安技術協会）